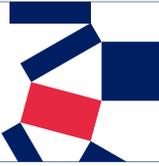


公認プログラム



発行：令和元（2019）年5月

編集：武蔵野市総合政策部企画調整課

オリンピック・パラリンピック担当

武蔵野市緑町2-2-28 TEL：0422-60-1970

むさしのジュニア 2020 通信

Vol.2

武蔵野市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会を立ち上げ、「むさしのジュニア特派員」という取り組みを開始しました。

市内から12人の小・中・高校生が集まり、市内のスポーツイベントを中心に取材を行い、広報誌を作成しています。特派員たちが自分の言葉で書いた記事からは、東京2020大会等へのワクワクした気持ちが伝わってきます。

東京2020オリンピック・パラリンピックまであと1年！

そしていよいよ、ラグビーワールドカップ2019™が、今年9月に開幕します！



前号に引き続き、**ジュニア特派員**が
楽しいニュースを皆様にお届けします！

編集長あいさつ

こんにちは。武蔵野ジュニア特派員の新聞隆博です。

今回で2号目の通信となりますが、前号はどうでしたでしょうか？「知らないスポーツを知ることができた！」「この競技をやりたい！」「是非、東京で観戦してみたい！」などと少しでも関心を持っていただけたら幸いです。

個人的には、各メンバーが制作したコラムが印象的でした。オリンピックの歴史や疑問点を読みやすく、分かりやすく書かれており、とても面白かったです。第2号でもコラムがあるので、是非探して見てください。最近では、私たちの活動だけでなく、CMやメディアでもパラリンピックの競技に触れることが

増えてきており、嬉しいのと同時に、もう来年なんだという期待感でワクワクします。オリンピック・パラリンピックについて、少しでも下準備や知識があると、より一層楽しめると思うので、この紙面を通して、そのような方が増えてくださると嬉しいです。

ジュニア特派員 編集長
新聞隆博



第22回日本シッティングバレーボール選手権大会

12月8日(土)・9日(日) 武蔵野総合体育館

真野監督に快くインタビューを引き受けていただきました。そして、なんと実際の記者の方と一緒に、本格的な優勝者インタビューを行いました！

今回の取材でシッティングバレーボールをはじめて見た特派員たち。素直な感想を記事にしています。

真野 嘉久監督へインタビュー

第22回日本シッティングバレーボール選手権大会で、シッティングバレーボール女子日本代表の真野 嘉久監督にお話をうかがいました。



真野 嘉久監督

Q. シッティングバレーボールの一番好きなのところは、どんなところですか？

A. 年齢を問わず子どもからお年よりまでできるところです。

Q. 練習の時に、監督として気をつけていることはありますか？

A. 選手の体調に気をくばることです。

Q. 子どものころは何をしていましたか？

A. 剣道とバレーボールをしていました。剣道は中学生まで、バレーボールは中学生からはじめました。

Q. 2020年にむけた目標を教えてください。

A. メダルをとることです！

実際に試合を見て、いろいろな年齢の人が協力してプレーしているすがたに感動しました。私もシッティングバレーボールにチャレンジしてみたいです。

(取材・文) 橋口 若奈

シッティングバレーボールってなに？

みなさんシッティングバレーボールのことを知っていますか？シッティングバレーボールとは、座ってプレイするバレーボールです。座ってプレイするバレーボールと聞いても、なかなかイメージできないですね。

それでは、シッティングバレーボールのルールを説明します。

シッティングバレーボールとは、

1. 床に座って、手を使っておこなう。
2. ボールを触るときに、コートからお尻をうかせてはいけません。これがルールです。これによって足に障害がある人と、障害の無い人が同じ条件でプレイすることができます。

私がいいなと思ったのは、障害のある・なしに関係なくプレイできることです。2020年にむけてがんばっているシッティングバレーボールの選手たちを応援しましょう。

(取材・文) 道川 結月



試合の様子





優勝した東京プラネット女組



メディアの記者にまぎって取材をする特派員

優勝チームへインタビュー

日本シッティングバレーボール選手権大会で見事優勝したのは、東京プラネット女組です。

黒とピンクのユニフォームの笑顔が素敵な選手たちと、監督にお話をうかがいました。

Q. 優勝した今の心境を教えてください。

A. 率直にとっても嬉しいです！

Q. シッティングバレーボールを始めたきっかけは、なんですか？

A. 友達に誘われて・インターネットで知った・元々バレーボールをやっていたから・義足を作る先生に紹介されて…などです。

Q. シッティングバレーボールのアピールポイントは、どんなところですか？

A. 障害のあるなしや年齢に関係なく誰もが出来ることです。

試合中も、声をかけ、仲間を励まし合っている明るい「東京プラネット女組」の皆さん、来年も連覇に向けてのご活躍を期待しています！

(取材・文) 宮川千鶴

シッティングバレーボールの道具

シッティングバレーボールには、専用のコートと道具があります。

コートは、全体が縦10m横6mで、ふつうのバレーボールのおよそ半分の広さです。道具は、支柱、支柱カバー、アンテナ、ネット、ボールがあります。ネットの高さは、ふつうのバレーボールより低いです。男女でネットの高さが違い、男子は115cmで女子は105cmです。座ったままスパイクが打てる高さになっています。

ネットに合わせて、支柱、支柱カバー、アンテナも専用のものになっています。ボールの大きさはふつうのバレーボールと同じです。

ふつうのバレーボールが一番違うと思ったのは、ネットの高さです。試合をみていて、すごく低いなと感じました。だから100cm以上もあるなんて意外でした。

(取材・文) 宮崎悠里

低いコートネット



床にはタラフレックスという素材の仮設コートが敷かれています



こうりゅう ホストタウン交流フェス ~Sports for All ルーマニア・パラ~

1月20日(日) 武蔵野総合体育館

ゲスト 大橋 未歩さん (フリーアナウンサー、パラ卓球アンバサダー)、アレクサンドル・ポロガ選手 (視覚障害者柔道)、ガブリエラ・コンスタンティン選手 (パラ卓球)、タビタ・ブルトゥラル選手 (パラ卓球) (実寸 A4 チラシ)

東京 2020 大会で、武蔵野市がホストタウンをつとめるルーマニア。市内で集まった募金を利用して、ルーマニアから東京 2020 パラリンピック出場を目指す選手たちがやってきました!

1月20日(日)の交流イベントでは、ルーマニアと日本・武蔵野市の文化を紹介するブースや、「パラスポーツサーキット」など、パラリンピックの競技体験があり、盛りだくさんの取材となりました。最初はルーマニアから来た選手たちを相手に緊張していたジュニア特派員たちでしたが、インタビューを通して打ち解け、温かい交流ができました。



武蔵野市の伝統芸能である
むさしのばやしと獅子踊りが見られました



視覚障害者柔道のアレクサンドル・ポロガ選手に、
2016年のリオパラリンピックで獲得した本物の銅メダルを触らせてもらいました!



パラスポーツサーキット

皆さん、パラスポーツを知っていますか? パラスポーツは、障害をもった人と楽しめるスポーツです。今回紹介する「パラスポーツサーキット」では、主に4つの競技を体験しました。車椅子バスケットボールやブラインドサッカーは、どんな競技か何となく想像がつくと思います。ゴールボールやポッチャを知っているでしょうか? ポッチャは耳にしたことのある人が多いと思います。ゴールボールは、鈴の入ったボールを、ゴールに入れて得点を競うゲームです。これらの競技が、障害をもった人との架け橋になればいいなと思います。ちなみに、ゴールした後に参加賞のクジびきをしましたが、ハズレでした。

(取材・文) 井本 晋明



左から、ゴールボールのボール、
競技用車いす (車いすバスケットボール)、ブラインドサッカーのボール

視覚障害者柔道 アレクサンドル・ボロガ選手 インタビュー

2016年リオパラリンピックの視覚障害者柔道で銅メダルを獲得したボロガ選手にお話をうかがいました。

Q. 柔道の好きなのところはどんなところですか？ **ボロガ選手**

A. 複雑で、たがいを尊敬するところと、敬意がとても大事なところが好きです。



Q. リオパラリンピックで銅メダルをとったとき、どんな気持ちでしたか？

A. 銅メダルをとるときまでの苦労が実って、試合で能力を発揮することができてうれしかった。

Q. メダルはどのような保存方法なのですか？

A. 紙の箱の中にまた箱があり（木の箱）その中にメダルを保存しています。（実際にメダルを見せてくれました！）

ボロガ選手の柔道の好きなのところで、「たがいを尊敬する」と言っていたところが素敵だと思いました。未経験の方でも楽しく体験できるのでぜひやってみてください。（取材・文）高坂 ころこ



選手との集合写真

背負い投げをするボロガ選手



Q. 柔道で楽しいところはどこですか？

A. 色々な技があり、何の技で試合をするのか作戦を考えることです。

Q. 試合前に心がけている事はどのようなことですか？

A. 緊張をほぐすために散歩をすることや、対戦相手の情報を出来るだけ知ることです。

優しい笑顔のボロガ選手ですが、柔道が始まると表情が変わりました。得意の関節技を決める姿が、とてもかっこよかったです。とくに、相手の選手をたたみにたおす時の音が、印象的でした。2020年の活躍も是非見たいです。応援しています！！

（取材・文）宮川 竜登

パラ卓球 ガブリエラ選手・タビタ選手 インタビュー

Q. 卓球の楽しいところはどんなところですか？

A. ガブリエラ選手「（卓球は）人生そのものです」

タビタ選手「複雑なスポーツで何度も考えるし、頭を使うところです」

Q. いつから卓球をはじめましたか？

A. ガブリエラ選手「20年前に始めました」

タビタ選手「2年前に始めました。13～14歳のときに一回卓球をしたことがありました」

Q. 休日はどんなことをしてリフレッシュしていますか？

A. ガブリエラ選手「散歩。一番は卓球」

タビタ選手「家族や友達と過ごす」



タビタ選手



ガブリエラ選手



卓球のデモンストレーション

ガブリエラ選手が休日のリフレッシュでも卓球をしているところがさすがだと思いました。ふつうにやっているようにみえるけど、とても頭を使っていると感じました。（取材・文）高根澤 真輝

とう きょう ほん せん ボッチャ東京カップ2019 本選

がつ か ど むさしのそうどうたいいくかん
3月9日(土) 武蔵野総合体育館

げんえき にほんだいいひょう ひのたま か ぜんこく むさしのし あつ とうきょう
現役のボッチャ日本代表である火ノ玉ジャパンチームに勝つため、全国から18チームが武蔵野市に集まった「ボッチャ東京
カップ2019」。市内からは、なんと3チームが出場しました。大野田小学校の「レッドチーム」は、アスリートチーム相手に
だいかつやく ぎやくてんしやうり
大活躍！ 逆転勝利をおさめました。

じゅニア特派員たちは障害の重い選手の道具である「ランプ」を体験し、選手の技術の高さを改めて実感しました。



おおのでんしやうがっこう
大野田小学校の「レッドチーム」
げんえき えが お たいかい も あ
元気な笑顔で、大会を盛り上げてくれました

しな い かつどう とうきょうだい だん だ い だん
市内で活動するガールスカウト東京都第18回、第110回
の子どもたちから、武蔵野市の来街者歓迎のしおりを選手
にプレゼント！



う と いけぎき だいすけせんしゆ
しおりを受け取る「アスリートチーム」の池崎 大輔選手
(ウィルチェアラグビー日本代表)

ち い き しゆつじやうせんしゆ 地域からの出場選手にインタビュー

こんかい ほんせん すず むさしのし げきだんなかの だい 1 しあいしゆりやうご
今回は、本選に進んだ武蔵野市のチーム「劇団中野@NTTクラリティ」に、第1試合終了後にインタビューさせ
ていただきました。彼らがボッチャと出会ったきっかけは、企業対抗のボッチャ大会だそうで、当初は大会本番の
3分の1の大きさのコートで練習していたそうです。

しかし、今回ボッチャ東京カップの本選に出場が決まったということで、練習量を増やし、コートのお大きさも、

ほんほん おな れんしゆ
本番と同じサイズで練習されたそうです。その
けつ か だい 1 しあい しゆり
結果、第1試合で勝利をおさめました！インタ
ビューでは、「勝てて良かった」「強かった」と話
してくださり、「このまま勝ち進み、火ノ玉ジャパ
ンと対戦してみたい」と仰っていました。

たいかい ゆうしやう かくりつ きも
大会で優勝する確率をうかがうと、「気持ちは
100%で、ボッチャで勝つことが楽しい」と、イン
タビューに答えてくださりました。

しゆざい ぶん しんま たかひろ
(取材・文) 新聞 隆博



げきだんなかの みな
「劇団中野@NTTクラリティ」の皆さん
あつ い き こ はな
熱い意気込みをお話いただきました！

れんしゅうほうほう きっかけと練習方法

- Q. ボッチャの好きなのところはどこですか？
 A. チーム戦で楽しいところです。
 Q. 普段の生活で、ボッチャのために気を付けていることはなんですか？
 A. 生活のリズムを崩さないようにしています。
 Q. 練習時間はどれくらいですか？
 A. 1日5時間ぐらい練習しています。

私がボッチャを体験してみると、とても難しかったので、ボッチャ日本代表選手にまでのぼりつめた藤井友里子選手がとても素敵に思えました。
 (取材・文) 高坂 ころこ

藤井 友里子選手とジュニア特派員

め ざ かくとく ふじいせんしゅ 「目指せ！メダル獲得」藤井選手

- Q. メダルは、どうやって保管していますか？
 A. 部屋に飾っています。
 Q. メダルをとったとき、誰に最初に見せましたか？
 A. 父です。
 Q. 2020年に向けた目標は、なんですか？
 A. メダル獲得です。

「メダル獲得！」という2020年の目標のために、私も藤井友里子選手や他のボッチャの選手を応援していきたいです。
 (取材・文) 道川 結月



取材に答える
藤井 友里子選手

ひのたま 火ノ玉ジャパン 藤井 友里子 選手にインタビュー

ボッチャ東京カップ2019では、2016年のリオパラリンピックで銀メダルを獲得した、ボッチャ日本代表「火ノ玉ジャパン」の選手も出場しました。

そんな代表選手の一人である藤井 友里子選手へ、ジュニア特派員がインタビュー！たくさんの質問に答えていただきました。4つの視点から、藤井選手の魅力と、強さの秘密に迫ります！

くるま 車いすでボッチャ！

藤井選手専用の車いす



- Q. この車いすは、いつから使っていますか？
 A. ボッチャをやり始めてからずっと使っています。
 Q. 車いすの良いところはどこですか？
 A. 投球の邪魔にならないように、
 ①足元のステップ台をすぐはずせます。
 ②コントローラーが動かせるようになっています。
 ③試合中に体がずれないように、体に合ったサイズになっています。

車いすに色々な機能がついていて、とてもすごいなと思いました。私はもともとボッチャに興味があったのですが、車いすにはあまり興味がありませんでした。でもこのインタビューをして、車いすにも興味が出ました。

(取材・文) 宮崎 悠里

ふじいせんしゅ な かた 藤井選手の投げ方について

- Q. 上投げと下投げどちらで投げますか？
 A. いつも上投げです。
 Q. 投げるとき工夫していることはなんですか？
 A. 右手で投げるときに、左手で車いすのレバーをつかみ、体をしっかりと支えることです。車いすのフィット感が重要です。
 Q. 青と赤どっちのボールが好きですか？
 A. どちらが好きというのは特にありません。

2つ目の質問の工夫していることは、普通の工夫のように思えるけど、やってみると難しいことがわかりました。

3つ目の質問では、答えが特にないというところが意外でした。

(取材・文) 高根澤 真輝



ポッチャは、障害を持っている人でもできるスポーツです。そのための補助具である『ランプ』という道具を紹介します。
 ランプとは、手を使って投球できない人のための道具です。すべり台みたいな形をしていてスロープ部分の長さや向き、高さを調節することができ、ボールを投球します。アシスタントは、選手の指示にしたがって、ランプの高さ、向きなどを調節することができますが、試合中は、コートを見ること、言葉を発することは禁止されています。ポッチャは、補助具を使うことで、障害を持っている人でも楽しめるスポーツだということがよくわかりました。

(取材・文) 橋口 若奈

ランプについて

ポッチャは、障害を持っている人でもできるスポーツです。そのための補助具である『ランプ』という道具を紹介します。

ランプとは、手を使って投球できない人のための道具です。すべり台みたいな形をしていてスロープ部分の長さや向き、高さを調節することができ、ボールを投球します。アシスタントは、選手の指示にしたがって、ランプの高さ、向き



ランプを使って投球する選手



ランプ体験をするジュニア特派員

コラム1

ジュニア特派員 石垣 龍

サッカー日本代表のオリンピック



サッカー男子日本代表は、2020年東京オリンピックで良い結果を残せるでしょうか？ ぼくは良い結果を残せると思います。なぜかという、これまで日本代表は、ベスト8を2回、4位を1回、それになんと銅メダルを1回とるというすばらしい結果を残しているからです。

そして、日本代表には、Jリーグにとどまらず、世界のトップと呼ばれるチームに所属している選手もいます。だからこの日本を代表して2020年東京オリンピックもがんばってほしいです。これからも良い成績を残してくれることを期待し、キックオフを待つばかりです。

コラム2

ジュニア特派員 宮川 竜登

ラグビーワールドカップについて



みなさん、次のラグビーワールドカップがどこで行われるか知っていますか？なんと私たちが住んでいる日本です！ 史上初のアジアでのラグビーワールドカップがこの日本で開かれます！！

開催期間は、今年の9月20日から11月2日までです。試合会場は、北は北海道から南は熊本までの全国12ヶ所。武蔵野市から一番近い会場は東京スタジアム（調布市）です。

20の国の代表チームが、4つの「プール」と言われるグループに分かれて試合を行います。日本はプールAです。日本の他には、アイルランド、スコットランド、ロシア、サモアがいて決勝トーナメントを目指して戦います。

大会マスコットは、歌舞伎の連獅子をモチーフにした親子（白髪の「レン」と赤髪の「ジー」）。顔の形はラグビーボールの形になっています。

2019年ラグビーワールドカップが楽しみですね！ 試合も大会マスコットもこの目で見てみたいです。



ラグビーワールドカップ2019™の公式マスコット・レン（左）とジー（右）

ボッチャの審判

小林 彩子さん
審判長の小林 彩子さん



今回の大会で、審判長を務める小林さんにお話をうかがいました。審判をする時の注意点をうかがうと、「選手たちの練習成果が十分に発揮できるように、ハキハキと大きな声で話したり、立ち居ふるまいに気をつけたりして、選手達が安心して試合に取り組めるようにしています」と答えてくださいました。

次に、距離を測る道具についてお聞きすると「ジャックボールから距離がある時はメジャーを使い、近い時はキャリパーを使って測ります。キャリパーとは、コンパスのよ



ボール同士の距離を測るキャリパー

うに広げて測ることができる道具です。さらに、数ミリの距離を測る時は、ライトを使い光の通る広さで測ります」と答えてくださいました。最後にパラリンピックの審判員の決め方を質問すると、「国際審判員の試験があり、それに合格しないとパラリンピックの審判にはなれません。パラリンピックでは、会話が英語になるので、英語力がが必要です」と、答えてくださいました。私は改めて、審判の方々がいるからこそ大会が成り立っていることに気づきました。今度観戦する時には選手だけでなく、審判員にも拍手を送りたいと思いました。(取材・文) 宮川 千鶴

コラム3

ジュニア特派員 高津 佑介



オリンピックの消費電力

みなさんオリンピックで選手が一番長く時間を過ごす場所はどこでしょう？そう、選手村です。

17000人も人が滞在する見こみがあり、夏に開催されるので、エアコンはフル回転でしょう。そんなお金があるのかと疑問が出てきます。しかし、さほど電気は使わないようです。エアコンはフル回転ですが、他に電力を使うのは会場を照らす照明くらいでしょう。大会での必要電力量を見積もると、4万kwの消費電力が見込まれるそうです。ピンとくる人は少ないと思うのでお教えしましょう。4万kwは火力発電のわずか1タービンだけを動かせば生み出せる電力量です。このようにオリンピックではさほど電力を使わないようです。しかし、節電は心がけましょう。

コラム4

ジュニア特派員 桜井 裕雨



パラリンピックの始まりと歴史

パラリンピックが始まった年は次のどれかわかりますか？

① 1948 ② 1960 ③ 1988 実は3つとも正解なのです。

1948年イギリスのストーク・マンデビル病院で戦争で障害を負った兵士達のスポーツ大会が開かれました。これがのちのパラリンピックの原型になったのです。1960年には、会場が病院から競技場に移り、正式な国際スポーツ大会として行われるようになりました。ただしこの時は「パラリンピック」というのは、まだ愛称で、正式な大会名として使われるようになったのは、1988年のソウル大会からです。

そんなわけで、様々な歴史のあるパラリンピック、2020年には東京で第16回大会が開かれます。

パナソニックセンター東京

3月26日(火) パナソニックセンター東京

市外での出張取材として、パナソニックセンター東京でオリンピック・パラリンピックの体験型の展示を取材しました。文化・スポーツ・教育の3つの分野に分かれた展示を取材し、競技だけではなく、国際理解や日本文化についての理解を深めたジュニア特派員たち。それぞれ取材対象を決め、①すごいと思ったところ、②初めて知ったこと、③展示を見て感じたことの3つの点から紹介します。

文化・教育についての展示

オリンピック・パラリンピックは自分の国や外国への理解を深めるきっかけにもなります。

世界のマナーと、日本の食文化について、展示を見たジュニア特派員が紹介します。

日本のマナーと外国のマナー

①面白いと思ったところ

表と裏で違うことをかいた、板などがおもしろかったです。

②初めて知ったこと

まず、日本では首を縦にふるのが「YES」、横にふるのが「NO」ですが、ブルガリアやギリシャでは、首を縦にふるのが「NO」で、横にかたむけるのが「YES」。

他にも、日本では、子供を可愛がるとき頭をなでますが、タイでは子供の頭の上には神が宿るとされているので、手をおいたりするのはタブーなどと、いろいろな国のマナーを初めて知ることができました。

③自分の考え・感想

日本にいと、他の国のマナーを知る機会がすごく少ないので、もっと調べて、他の国のマナーに反しないように気をつけたいと思いました。

ひとつの動作について、表に日本での意味、裏面に海外での意味が書いてある展示。同じ動作でも、国によって意味が違い、失礼になってしまうことも。



目で見て舌で味わう「和食」

日本の伝統料理が春夏秋冬の季節ごとに画面に表示される展示



①面白いと思ったところ

和食は、味だけでなく、見た目の美しさや季節感(旬)にもこだわっているのが大きな特徴です。今では一年中手に入る食材(大根など)も、昔ははっきりと季節が決まっていたのが面白かったです。

②初めて知ったこと

料理に使われる食材が今と昔では結構違うことを知りました。

た。獣の肉はあまり食べられていなかった一方、タンパク源としてセミなどの昆虫を食べていたそうです。

③自分の考え・感想

「旬」は和食の大きな魅力ですが、裏を返せば一年を通じて同じ食材が手に入りやすくなったことのあらわれでもあります。だからこそ保存の効く米が重宝され、和食の中心になったのでしょう。

(取材・文) 桜井 裕雨

スポーツについての展示 てんじ

東京2020大会や競技について知ること
 で、そのすごさを改めて実感でき、大会をより楽しむことができます。聖火リレー、競技の道具、選手について、特派員が紹介します。

聖火トーチ せいかりん

①面白いと思ったところ

トーチは夏季オリンピック・冬季オリンピックや、国によって形やもようが違うこと。トーチの中の火は消えない工夫があるところ。

②初めて知ったこと

トーチの中や形、大きさが国や文化、伝統、オリンピック競技で変わること。五輪のマークをつける位置はきまっていないこと。東京2020大会のトーチは桜の形をしていること。

③自分の考え・感想

日本のトーチの大きさ、もようや、トーチの形以外の工夫についてもっと知りたいと思いました。

(取材・文)宮川 竜登



バンクーバー2010オリンピック冬季競技大会トーチ(左)と、リオ2016オリンピック競技大会トーチ(右)

ウサイン・ボルト

①面白いと思ったところ

ボルトの1歩が、自分の歩幅で4歩程度もあったこと。

地面が陸上競技のトラックのようになっていて、凝っているなど思いました。

②初めて知ったこと

ボルトは生まれつき背骨に障害があることと、ボルトが記録更新をする前と後

走っているときのボルトの歩幅がわかる展示。陸上トラックにボルトの足跡がついています。



では0.2秒も違ったこと。交通事故をおこすなど極限状態でむかえたオリンピックで、新記録をとったこと。

③自分の考え・感想

自分にどんな困難があっても、それを言い訳にしないボルトがすごいなど思いました。

(取材・文)井本 晋明

パラバドミントン

①面白いと思ったところ

車いすにすわっているのに、バドミントンの選手と同じ高さ(155cm)のネットでプレイしていることが面白かったです。

②初めて知ったこと

車いすの後ろについている2本の車輪が、選手が後ろに反って打つとき転ばないために、ついていているということ。

③自分の考え・感想

上半身と車いすの高さだけで立っている選手が、通常のバドミントンと同じ高さのネットを使用しているときくと難しく思うと思いますが、その視点だからこそ、選手のすごさに気づけたと思いました。

(取材・文)高根澤 真輝

パラバドミントンの競技用車いすとネット



コラム5

ジュニア特派員 井本 晋明

メダル獲得数ランキング



オリンピックを見る中で、表彰式が一番目を引くイベントだと思います。そのオリンピックのメダルの数、一回の大会でどの国がいちばん獲得しているのでしょうか。2016年のリオオリンピックでは、アメリカが、2位の中国に50個以上の差をつけて1位に君臨しています。

日本は、7位に入っています。これまでのオリンピックでの個人のメダル獲得数を見ると、アメリカの水泳選手、マイケル・フェルプス選手が1位です。2位はソ連(現ウクライナ)のラリサ・ラチニナ選手です。ラリサ選手は女子体操選手で1964年東京オリンピックでも金、銀、銅全てのメダルをとっています。メダルの獲得数を見ていると、多さにびっくりしますね。2020年の東京オリンピックは、どこの国が一番獲得ののでしょうか? 楽しみですですね。

ジュニア特派員は、今回第2号となる「むさしのジュニア2020通信」を発行しました。通信発行のために「記事の書き方」「写真を上手に撮るポイント」など特別講座も受講。ブラインドサッカー、ボッチャ、カヌー体験など多くの学びを得た充実した一年間となりました。インタビューでは、選手一人ひとりから苦労談や練習方法など生の声を聞き、その迫力に圧倒されていました。ルーマニアの視覚障害の柔道選手とは、アイマスクを付けて直接組手で触れ合い、「見えないことが強さになる」との言葉を実感しました。交流を通して今までの認識が変わり、一人ひとりが大きく成長した姿が印象的でした。
(ジュニア特派員サポーター：野本 敬忠)

ジュニア特派員 第2期メンバー 募集!

対象：小学4年生～高校2年生 活動期間：2019年7月～2020年11月(予定)

オリンピック・パラリンピックについて取材して広報誌をつくらう!

東京2020オリンピック・パラリンピックの盛り上がり取材する

ジュニア特派員を募集します **申込み締切：6月17日(月) 必着**

記者やカメラマンとして、あなたの感動を多くの人に伝えましょう

◆活動の流れ

- ★講座 プロの記者などから取材の秘訣を学びます。
- ★会議 どんな広報誌を作りたいか話し合い、取材の方法や分担を考えます。
- ★取材 現役アスリートやスポーツイベントなどを取材します。
- ★記事作成 取材した内容から、記事を作成します。
- ★発行 記事をまとめて広報誌を作成し、広く発信します。



詳しくは、ホームページ(QRコードから)、または市報6月1日号をご覧ください。

●お申込み方法：①氏名②年齢・学年③住所④連絡先⑤所属(学校名等)を記載し、メールまたはファクスでお申込みください。

●お申込み先：武蔵野市総合政策部企画調整課オリンピック・パラリンピック担当
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
TEL:0422-60-1970 FAX:0422-51-5638
Eメール：SEC-OLYPARA@city.musashino.lg.jp

◆参加する時の注意

- ①必ず保護者の方の同意の上、お申し込みください。
- ②本事業では、事業の様子を写真や映像に納めることがあります。ジュニア特派員の肖像は、写真・映像の被写体となり、本事業の運営、広報活動のため、本事業に関わるWEBサイト、SNS、パンフレット等に掲載される可能性があります。あらかじめご了承ください。

【発行】 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた武蔵野市実行委員会
(事務局) 武蔵野市総合政策部企画調整課(オリンピック・パラリンピック担当)
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28 TEL:0422-60-1970(直通) FAX:0422-51-5638